



2024年3月期 第2四半期
決算説明会レポート(書き起こし)

サイバートラスト株式会社
東証グロース：4498

2024年3月期 第2四半期 決算説明会レポート

- 2024年3月期 第2四半期業績概要
- サービス別概況
- 2024年3月期 通期業績予想

Summary

■ 2024年3月期 第2四半期業績概要

**前年同期比 増収増益を継続
通期業績予想達成に向け、計画通り進捗**

通期業績予想に対して当社の業績推移は下期偏重型、24年3月期においては特にQ4で売上高・営業利益ともに拡大する予想であり、第2四半期業績は計画通りの進捗
リカーリング売上高比率を着実に積み上げ第2四半期において過去最高の67%

- ・ iTrustによる自治体給付金の本人確認ニーズの高まりなど進捗好調、iTrustの利用範囲の拡大に向けた取り組みを遂行中
- ・ CentOS延長サポート契約件数増加、Q4に向けた準備進行
- ・ IoTサービスはプロフェッショナルサービスのうち、セキュリティコンサル増加

■ 2024年3月期 通期業績予想

売上高 前期比20%超、営業利益 前期比30%超の高成長を見込む
売上高 前期比21.6%増の75億円、営業利益 前期比32.9%増の14億円
中期経営計画数値目標達成に向けて着実に成長

■ 株主還元

**2023年3月期より配当開始
24年3月期の配当予想は1株あたり 17円50銭 を予想**

■ IRサイト

当社HPのIRサイトでは、株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。ぜひご覧ください。
<https://www.cybertrust.co.jp/corporate/ir/>





2024年3月期 第2四半期決算説明会

サイバートラスト株式会社
東証グロース：4498
2023年10月25日

サイバートラスト株式会社代表取締役社長、北村でございます。
本日はお忙しいところ、当社決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。
でございます。

それでは、2024年3月期第2四半期の決算につきましてご説明いたします。

Agenda

- エグゼクティブサマリー
- 2024年3月期 第2四半期業績概要
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - Linux/OSSサービス
 - IoTサービス
 - その他概況
- 2024年3月期 通期業績予想

こちらがアジェンダとなります。

■ エグゼクティブサマリー



24年3月期
第2四半期業績

前年同期比 増収増益 過去最高の第2四半期売上高・営業利益

認証・セキュリティ

iTrustによる自治体給付金の本人確認ニーズの高まりなど進捗好調
iTrust売上高 前年同期比 75%増

Linux/OSS

CentOS7延長サポートの引き合い着実に増加、受け入れ準備進行
通期予想の達成を見込む

IoT

EMLinuxサポート伸長も、プロフェッショナルサービスは横ばい
国際安全基準等による当社サービスのニーズ高く、SBOM対応 EMLinux新バージョン
提供などの施策は着々と進展

24年3月期
通期業績予想

Q4で売上高・営業利益とも拡大する予想 通期業績予想達成に向け、計画通り進捗

売上高 75億円(前期比+20%) 営業利益 14億円(前期比+30%)

安定高収益サービス+3つの高成長牽引サービス (iTrust、Linuxサポート、EMLinux)が業績を牽引
して増収増益の見込み

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

3

最初にエグゼクティブサマリーからご説明いたします。

2024年3月期第2四半期の業績について、前年同期比増収増益、過去最高の第2四半期売上高・営業利益となりました。

各サービスの概況につきましては、この後個別にご説明いたします。

2024年3月期通期業績予想につきましては、第4四半期で売上高・営業利益ともに、拡大を見込んでおります。

そのため通期業績予想達成に向け、現在計画通り進捗しております。

- エグゼクティブサマリー
- **2024年3月期 第2四半期業績概要**
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - Linux/OSSサービス
 - IoTサービス
 - その他概況
- 2024年3月期 通期業績予想

続きまして2024年3月期第2四半期業績概要となります。

■ 2024年3月期 第2四半期 連結業績の概況



前年同期比で増収増益、過去最高の第2四半期売上高・営業利益

売上高前年同期比3.6%増 **2,981** 百万円 営業利益前年同期比3.7%増 **425** 百万円

- 認証・セキュリティサービスは DX市場の拡大によりリカーリング売上が好調に積み上がる
- Linux/OSSサービスは Q4から需要拡大を見込むリカーリングサービスに向けた準備進行
- IoTサービスはリカーリングサービスが堅調に推移

(単位:百万円)	FY22 H1	FY23 H1	前年同期比
売上高	2,877	2,981	+3.6%
営業利益	410	425	+3.7%
経常利益	417	426	+2.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	280	282	+1.8%
EBITDA	687	722	+5.1%

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

5

前年同期比で増収増益、過去最高の第2四半期売上高・営業利益となりました。
まず売上高に関しましては29億8,100万円、
営業利益に関しましては4億2,500万円、
経常利益に関しましても4億2,600万円と、
対前年同期でプラスとなりました。

取引形態別 四半期売上高推移

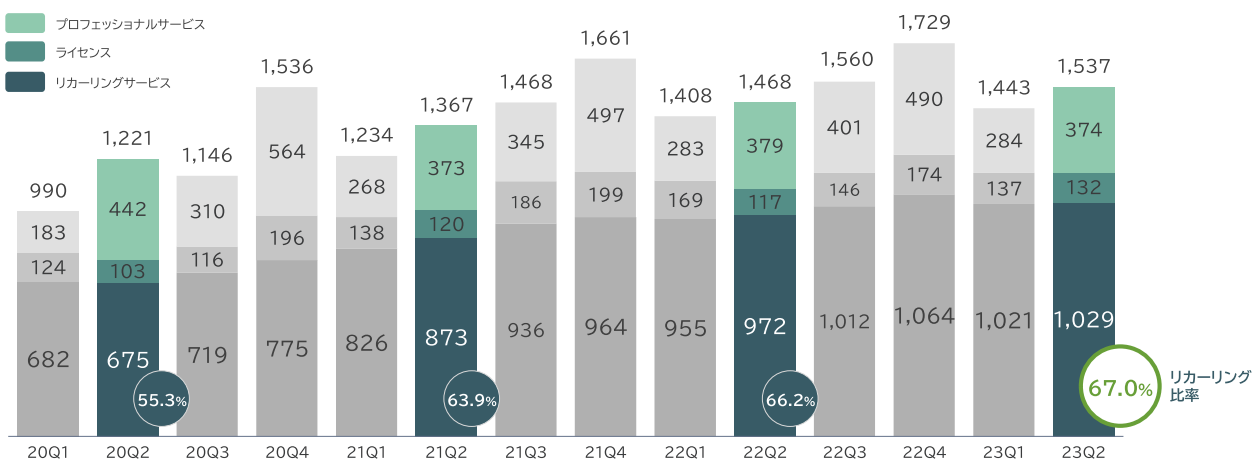


Q2リカーリング比率 過去最高 67.0%

高成長牽引サービスが牽引

(単位:百万円)

- プロフェッショナルサービス
- ライセンス
- リカーリングサービス



季節変動性：Q4はサーバー証明書など契約金額を一括計上する取引が集中

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

6

続きまして取引形態別四半期売上高推移ですけれども、
 こちらの高成長牽引サービスが牽引いたしまして、第2四半期のリカーリング比率で過去最高の67%を達成しております。
 着実にリカーリングが積み上がっております。

■ サービス別 売上高実績

- 認証・セキュリティ DX市場拡大で高成長牽引サービスである iTrust大幅伸長などリカーリング好調推移
リカーリング含む売上高は前年同期比+9%と着実に積み上がる
- Linux/OSS 高成長牽引サービス Linuxサポートのうち CentOSの契約件数増加傾向
- IoT 高成長牽引サービス EMLinuxサポート売上伸長
プロフェッショナルサービスの受託開発受注遅延

(単位:百万円)	FY22 H1		FY23 H1		前年同期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
認証・セキュリティサービス	1,692	58.8%	1,844	61.9%	151	+9.0%
Linux/OSSサービス	704	24.5%	661	22.2%	△42	△6.1%
IoTサービス	480	16.7%	474	15.9%	△5	△1.2%
売上高合計	2,877	100%	2,981	100%	103	+3.6%

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

7

サービス別売上高実績に関しまして、
 認証・セキュリティサービスはiTrustの大幅な伸びによるリカーリングが
 好調に推移しております。
 これを含めまして、認証・セキュリティサービスは対前年同期比9%プラス、
 Linux/OSSサービスおよびIoTサービスにつきましては、個別にこの後の
 サービス概況でお話いたします。

- エグゼクティブサマリー
- 2024年3月期 第2四半期業績概要
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - Linux/OSSサービス
 - IoTサービス
 - その他概況
- 2024年3月期 通期業績予想

続きましてサービス概況になります。

高成長牽引サービス iTrust中心にリカーリングが伸長

(単位：百万円)

認証・セキュリティサービス 売上高 (取引形態別)	FY22 H1	FY23 H1	前年同期比
リカーリングサービス (リカーリング比率)	1,402 (82.9%)	1,538 (83.4%)	+9.7% (+0.5ポイント)
ライセンス	85	97	+14.1%
プロフェッショナルサービス	204	208	+1.9%
売上高合計	1,692	1,844	+9.0%

リカーリング比率は83.4%(前年同期比+0.5pt)

- 主力の iTrustは、金融機関向け・自治体向け eKYC サービスや電子契約サービスなどで大幅に伸長し前年同期比75%増
- デバイスIDは、企業向けのクラウド認証サービス、リモートアクセス伸長
- SureServerは、更新率が向上、かつ新規顧客獲得が順調に進む
 - 国内の EVサーバー証明書市場において過去最高の 48.14% の枚数シェアを達成 2017年8月より7年連続 シェア No.1
- 収益基盤の強化に向け、高成長牽引サービスを中心にリカーリングサービスに注力した結果、取引形態別売上構成比が想定通り進捗



最初に認証・セキュリティサービスです。こちらは高成長牽引サービスでありますiTrustが、リカーリングとして非常に大きく伸びております。従来の金融機関向けのみならず、自治体向けの本人確認で採用されたことに応じまして、大幅な伸長となっております前年同期比で75%増。

またデバイスIDに関しましても企業向けクラウドサービス、リモートアクセスで引き続き伸長をしております。

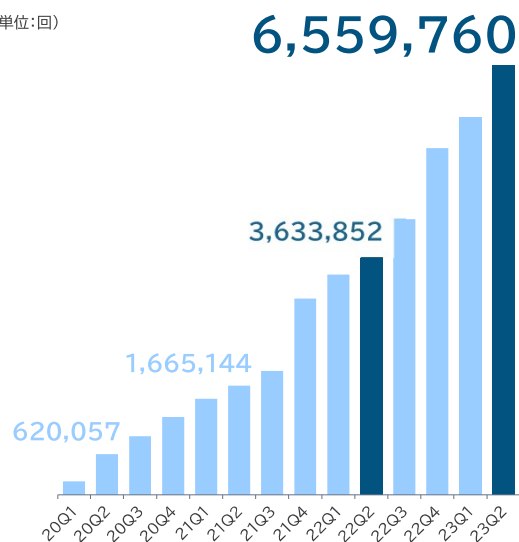
また、SureServerに関しましても、更新率が向上し、さらに新規顧客獲得が順調に進んだことから、EVサーバー証明書市場におきましては過去最高の48.14%ということで、シェアナンバーワンを獲得。

こちら7年連続のシェアナンバー1になっております。

このような状況からリカーリング比率が、83.4%と対前年同期比でのプラスということで、大きく伸長しておりますこちらのビジネスの安定性成長性の基盤になっております。

iTrustのトランザクション数(有償API利用件数)伸長

(単位:回)



利用件数 **655万件/四半期**

※Q2は、特定の自治体で9月に開始された給付金申請に伴うマイナンバーカードを用いた本人確認が想定以上に伸長

前年同期比 **1.8倍**

※3年間で10倍

圧倒的実績を有するトラストサービス

※ 2023年9月末時点自社調べ

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

10

特にiTrustにつきましては、トランザクション、第2四半期は、今回非常に多く伸びたと見ております。

こちらは9月に開始されました特定の自治体での給付金申請において、マイナンバーカードを用いた本人確認が行われました。9月で非常に多くの申請があったということで、第2四半期のトランザクションが大きく伸びております。前年同期で1.8倍、3年間で10倍という非常に大きな伸びを示しております。

iTrustの利用範囲の拡大に向けた取り組み

自治体での利用事例

iTrust(本人確認)

自治体の給付金関連事業において
パートナー企業 TRUSTDOCKのアプリ
を用いて本人確認を実施

サイバートラスト × TRUSTDOCK



申請者ひとりひとりに対し
iTrust(本人確認)が必要となり
トランザクションが増加

PR：サイバートラストとTRUSTDOCKが連携強化

医療業界初！電子同意書に採用

iTrust(電子署名)

政府による医療DXの推進により
医療業界初の電子同意書に採用

iTrust(電子署名)により
手術や入院などの署名や同意表明がデジタルで可能

サイバートラスト × Contrea



医療業界のデジタル化が加速し
パートナー企業における利用場面拡大で
トランザクションが増加

PR：サイバートラストのiTrust 電子署名用証明書とリモート署名サービスが、
ContreaのMediOS 電子同意書に採用

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

eシール普及に向けた協業

iTrust(eシール)

eシールを活用して
信頼性のあるデータ流通を実現

iTrust(eシール)により
電子文書の発行元の証明や完全性の証明が可能

サイバートラスト × インフォマート
サイバートラスト × スカイコム



国内で初めてeシール用証明書を
発行可能な認証局として
JIPDECトラステッド・サービスに登録
eシールの普及をリード

PR：サイバートラストとスカイコムが連携し、eシールを活用して信頼性のある
データ流通を実現

11

この間のiTrustに関わる利用範囲拡大に向けた取り組みについて説明いたします。従来、主に金融機関及び企業の電子契約が大きかったですけれども、今回自治体での利用ということが本格的に始まっております。給付金に関わるものに関しましては、パートナー様のTRUSTDOCKという会社のアプリを用いた本人確認、こちらに私どものサービスが組み込まれており、今後の給付金関連の本人確認で活用されていくことを考えております。

また2番目には、政府による医療DXの推進がございます。この中で業界で初めて、電子同意書に採用していただきました。こちらはパートナー様のContrea様とともに進めております。

もう1つ、eシールという企業および組織が発出するデジタルデータの発行元の証明およびその改ざん検出、完全性と言いますけれども、これらを証明するeシールという新しい概念が出てきております。こちらは今総務省をはじめ、取りまとめを行っております。私ども国内で初めてこのeシールを行うための証明書を発行可能な認証局としてJIPDECトラステッドサービスに登録、またパートナー様としても、インフォマート様、スカイコム様との提携によって、この日本のeシール普及に向けた取り組みを行います。

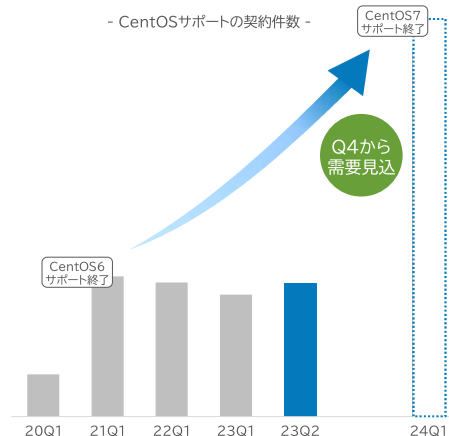
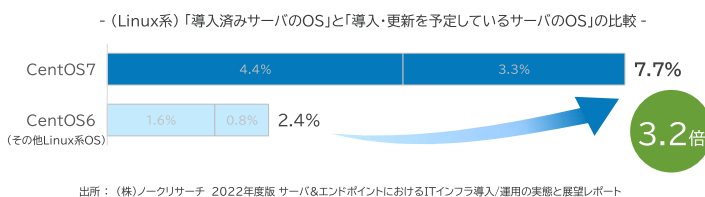
- エグゼクティブサマリー
- 2024年3月期 第2四半期業績概要
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - **Linux/OSSサービス**
 - IoTサービス
 - その他概況
- 2024年3月期 通期業績予想

続きましてLinux/OSSサービスについてご説明いたします。

CentOS延長サポート契約件数増加、Q4に向けた準備進行

CentOS7は最大で**3倍超**の延長サポート需要見込む

大手事業者の**契約件数増加**



CentOS7延長サポート獲得に向け、受け入れ準備進行

- ・ サービスラインナップ拡充 (CentOS延長サポート LITEリリース)
- ・ パートナーとの販促活動準備 (パートナー開拓、セールスツール等をまとめたラーニングセンター開発)など

CentOSの延長サポート契約というものが増加、第4四半期に向けた準備を着実に進行しております。

CentOS7はこの先でサポートが終了が発表されています。過去私どもが実際に経験した、体験したもののの中ではCentOS6のサポート終了のイベントがございました。

CentOS6のユーザーとCentOS7のユーザー、こちらは市場として約3倍ほどの差があると言われております。

データによりますとCentOS7はCentOS6のユーザーよりも3倍ほどいらっしゃる。私どもは、この需要を確実に取り込むためにこの活動を進めております。特にサービスラインナップの拡充であったり、あるいはパートナー様との販促活動、これらを着実に進めております。

右側のグラフを見ていただきますと、CentOS6のサポート終了で一度大きな成長があります。この後、若干ずつですけれども、その件数は下がってきておりますが、これはCentOS6のサポート終了を受けて延長サポートから徐々に他のプラットフォームに移行していく、このような中でオーガニックに減少しているものでありますけれども、この2023年第2四半期において、反転して大きく増えているというような状況が見て取れます。

こちらは、まさにこのCentOS7のサポート終了に向けて、一部大手のお客様は早々に契約を締結し始めてる、このような動きを見て取れると思います。

私ども現状まだ契約まで至っておりませんが、こちらのパイプラインというものの積み上がりを見ている状況の中で今後の第4四半期に向けた需要というものを見込んでおります。

Linuxサポートの売上拡大に向けた取り組み

CentOS延長サポート LITEの提供開始

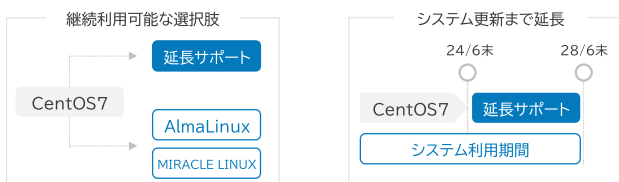
CentOS延長サポート LITE

小～中規模環境のお客様向けに
サーバー1台から導入可能



既存の大規模環境向け「CentOS延長サポート」に加え
「LITE」の提供開始によりすべてのお客様が
CentOSを安心して長期利用可能に

顧客層
拡大



PR：小規模システム向けにCentOSのメンテナンス更新終了後の修正パッケージと日本語での技術サポートを提供開始

Linuxライブパッチサービス の提供開始

Linuxライブパッチサービス

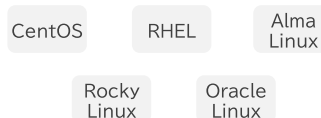
システムの稼働を停止することなく
セキュリティの更新対策が行えるライブパッチを実現



脆弱性を悪用したサイバー攻撃が増加
対策として OSの更新を日々行うことが必要不可欠
CentOSでは未提供の Linuxライブパッチサービスにより
変化する脅威にも自動で対応し安心安全な環境を実現

価値
向上

複数の LinuxOSが混在しても対応可能



PR：OS 無停止でセキュリティアップデートを実現する「Linuxライブパッチサービス」を提供開始

14

こちらの取り組みにおいては、これまでは主に大手のエンタープライズを中心に活動を展開しておりましたが、この上期において、やはり中小の企業のお客様に関しましては、同様の課題を持っておられるということで、サーバー1台からでも導入可能なCentOS延長サポートライトを提供開始いたしております。また、これに紐づくパートナー様、中小企業のお客様にこちらのサービスをお届けする際のパートナー施策もこの上期においてしっかりと準備させていただいております。

これらの、CentOS延長サポートおよびCentOS延長サポートライト、これを持って、顧客層の拡大、大手企業様から中小企業のお客様に至るまで、私どものサービスを提供する、そのようなサービスラインナップおよび体制を整備しております。

また、加えまして右側のLinuxライブパッチサービスですけれども、こちらは新たな付加価値ということでシステムの稼働を停止することなく、システムの脆弱性に対応するためのセキュリティパッチの更新を行えるサービスです。やはり現状、企業の皆様は、サーバーの停止をせずに、セキュリティ対策をしていく、これは非常に重要な課題となっております。

私どもここに関しましては、5月に発表しております、CloudLinux（クラウドリナックス）社との提携を持ってこの新しいサービスを提供していく、これによって、CentOSの延長サポートのみならず、企業のLinuxOSのセキュリティ向上のための付加価値を提供していく取り組みを行っております。

AlmaLinux関連の進捗と取り組み



RedHat社と友好的に問題解決

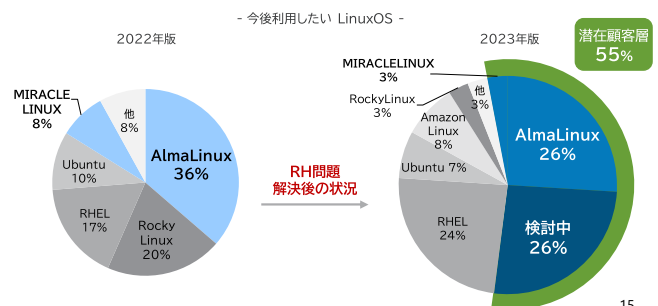
- 23/5 ● AlmaLinuxに関する提携発表
- 23/6 ● RedHat社によるソースコード提供制限の問題発生
- 23/7 ● The AlmaLinux OS FoundationがRed Hat Enterprise Linux互換OSの提供を継続することで解決

AlmaLinuxの共同開発を推進

CentOS後継の最有力候補AlmaLinuxと国内市場で強固な提携関係を築く



- ①後継OSの移行先には「AlmaLinux」、
- ②移行先検討中のお客様へは「CentOS延長サポート」の両面展開で収益拡大



PR : 23/5、23/5、23/6、23/7

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

出所：(株)データネット「今後利用したいLinuxOSについてアンケート調査(23.8.24)」

15

また、AlmaLinuxに関連するトピックスです。5月に当社AlmaLinuxに関する提携を発表しました。

その後RedHat社による、ソースコード提供の制限が発生して、状況が一時混乱しているようなところが見受けられましたが、その後The AlmaLinux OS FoundationとRedHat社との友好的な交渉によって、RedHat Enterprise Linux互換OSを提供し続ける、AlmaLinuxが互換を保ったまま提供が継続されることで解決いたしました。私どもは、日本国内においてこのAlmaLinuxの共同開発を積極的に進めております。

このCentOS後継の有力候補のAlmaLinuxにおいては、私ども、コミュニティ、及びCloudLinux（クラウドリナックス）社と提携をしっかりと深めながら、日本のお客様にこちらのグローバルスタンダードの製品、提供しようということでもさに今取り組んでおります。

また、こちらのソースコード提供制限の問題が発生した前後のユーザー様の導入したいLinuxOSの移行のデータをご覧ください。問題発生前はAlmaLinux、RockyLinuxが後継の有力候補として上がっておりました。その問題の発生後及びAlmaLinuxの方での問題が解決した後、この状況を比較いたしますと、当初移行先としての有力候補だったRockyLinuxが当初20%から3%となり、シェアを下げております。今後どこに移行しようかと検討中のお悩みのお客様が26%ということで非常に多くなっております。

私どもは、既存のMIRACLE LINUX及びAlmaLinuxそしてこの検討中のお客様にAlmaLinuxは安心してご利用いただけるような環境及びサービスラインナップを提供することによって、獲得していきたい。この潜在顧客となります55%をしっかりとビジネスにつなげていきたいと考えております。

- 2024年3月期 第2四半期業績概要
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - Linux/OSSサービス
 - IoTサービス
 - その他概況
- 2024年3月期 通期業績予想
- Appendix

続きますしてIoTサービスです。

EMLinuxサポート伸長もプロフェッショナルサービスは横ばい

(単位：百万円)

IoTサービス売上高 (取引形態別)	FY22 H1	FY23 H1	前年同期比
リカーリングサービス	32	41	+25.9%
プロフェッショナルサービス	390	384	△1.5%
ライセンス	57	48	△15.1%
売上高合計	480	474	△1.2%

■ EMLinuxサポート契約件数増加しリカーリング伸長

- 車載機器、工場用装置、制御機器、などに加えて医療機器、OA機器にも新規採用

■ プロフェッショナルサービスのうち、セキュリティコンサル増加

- 車載機器、次世代情報通信基盤向けセキュリティコンサルなど将来に繋がる大規模案件の獲得
- 各国規制の動向に基づく引き合いは堅調

■ カスタム開発などの受託開発は足踏み

- 車載機器・工場用装置、制御機器など既存顧客案件は堅調
- 顧客の受注動向の変化より案件成立長期化、受注遅延
- セキュリティ法制度に対応するEMLinux新バージョンのリリース

EMLinuxサポートに関しましては伸長しております。

一方プロフェッショナルサービスに関しては横ばいの状況になっております。

まずEMLinuxサポートに関して、こちらは車載機器および工場用装置、制御機器と従前はそのようなところで活用いただいておりますけれども、

これらに加えて、医療機器、OA機器にも新規採用というものが見られております。

またプロフェッショナルサービスの中でも、セキュリティコンサルは増加しております。

こちらは各国の法規制、及び安全基準等が、整備されていく中で、手前の評価をする、手前のところの評価が非常に増えてきていると。

そこに関するコンサルティングニーズが増加してきていることが反映されていると理解しております。

一方、その手前の評価の機会というものが増加する中で、開発に関してはその評価が終わった後からということで、

開発の受託開発に関しては、足踏み、遅れとそういう状況が見て取れます。

今回その影響を受けて、このプロフェッショナルサービスというものが若干足踏み状態になっております。

一方このセキュリティコンサルに関しては増加傾向にありますので、これが先々の受託開発につながるということで、この先の成長を私どもとしては見込んでおります。

サプライチェーンのセキュリティリスクに対する EMLinuxの取組み



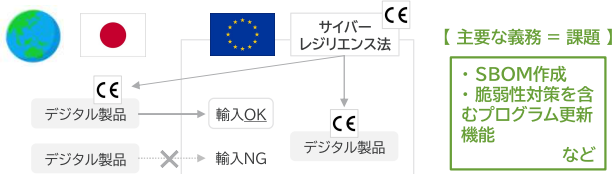
製造業者に課される義務がより明確化、広範囲に

サプライチェーンセキュリティを取り巻く環境

機器単位での SBOM脆弱性管理が
2025年よりほぼ全てのデジタル製品で義務化



欧州でデジタル製品のセキュリティ対策を義務付ける
「サイバーレジリエンス法案」の議論が進み
脆弱性管理において SBOMの利活用が明示
準拠していない製品は2025年以降出荷できず
国内企業はグローバルでの市場競争力を失いかねないリスク



出所：経済産業省 EUサイバーレジリエンス法、経済産業省 サイバーセキュリティ対策

セキュリティ法制度に対応する EMLinuxの提供開始

EMLinux

SBOM標準フォーマットの対応を実現し
主要な課題を EMLinuxが解決

EMLinux

既存の「脆弱性検査機能」の標準提供に加え
SBOM作成で各パッケージのバージョン、ライセンス情報の把握が可能
お客様のサプライチェーンセキュリティ確保を支援



PR：超長期サポート対応組み込みLinux OS「EMLinux」最新版でSBOM対応のサプライチェーンセキュリティ強化と
開発・運用効率向上を支援

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

18

IoTにおきましては、サプライチェーンのセキュリティリスクが非常に重要になってきております。
特に製造業におきましては、欧州でサイバーレジリエンス法というものの中で、SBOMと呼ばれているソフトウェア部品の表を用いた脆弱性管理が2025年度よりほぼ全てのデジタル製品で義務化という方向になっております。
私ども、その世の中の動向に応じまして、組み込み用OS、EMLinuxですけれども、SBOM標準フォーマットの対応を実現し、提供を開始、今まさにこの活動を開始したところでございます。

- エグゼクティブサマリー
- 2024年3月期 第2四半期業績概要
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - Linux/OSSサービス
 - IoTサービス
 - その他概況
- 2024年3月期 通期業績予想

サービス概況の最後、その他概況です。

■ OSSセキュリティを牽引する当社取組み



ソートリーダーとしていち早くグローバル標準に対応

ソフトウェアサプライチェーンにおける
セキュリティに関わる影響の拡大



米国先導により、
OSSグローバルコミュニティ※が
セキュリティ行動計画を策定

セキュリティ行動計画
10項目のうち
当社は3分野に注力

SBOMの
普及

サプライ
チェーンの改善

デジタル署名



活動の成果としての
SBOM対応製品・サービスの提供開始

※ OpenSSF(Open Source Security Foundation):Linux Foundation 下で進められているオープンソースソフトウェアのセキュリティ強化を目的として活動するグローバルコミュニティ
Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

20

先ほどIoTで申し上げましたソフトウェアサプライチェーン、こちらは、IoTのみならず、幅広くソフトウェア全体における非常に大きな課題として、今後影響が大きくなっていくであろうと思われるポイントでございます。

その課題に対して、米国市場によって、OSSグローバルコミュニティが、セキュリティ行動計画を策定したというのは以前皆様にもお話し申し上げたところでございます。この中でセキュリティ行動計画10項目のうち、当社は3分野に注力しております。

SBOMの普及、サプライチェーンの改善、デジタル署名。
この中の、これまでの活動の中で、当社の成果といたしましてSBOM対応製品サービスの提供を開始いたしました。
先ほどご案内申し上げたEMLinuxのみならず、AlmaLinuxにおいても当社がコミュニティに貢献することによって、このSBOM対応を実現しております。

世の中の動向を的確に捉えて、私どもといたしましては、ソートリーダーとしていち早くグローバル表示に対応する製品サービスの提供をしていく取り組みを行っております。

- エグゼクティブサマリー
- 2024年3月期 第2四半期業績概要
- サービス別概況
 - 認証・セキュリティサービス
 - Linux/OSSサービス
 - IoTサービス
 - その他概況
- **2024年3月期 通期業績予想**

最後に2024年3月期通期業績予想となります。

売上高20%超、営業利益30%超 の高成長見込む
引き続き高成長牽引サービスを中心にリカーリング成長が見込まれる

	FY22	FY23	前期比		(参考)
			増減額	増減率	Q2進捗率
売上高	6,167	7,500	+1,332	+21.6%	39.7%
営業利益	1,053	1,400	+346	+32.9%	30.4%
経常利益	1,065	1,400	+334	+31.4%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	725	950	+224	+31.0%	-
EBITDA	1,623	2,100	+476	+29.3%	-

業績予想は、売上高20%超え、営業利益も30%超えと高成長を見込む。
 こちらは従前どおり据え置きという形で、売上高75億円、営業利益14億円とさせていただきます。
 こちらのそれぞれのサービスの概況に関しては先ほど申し上げましたけれども、第4四半期に偏重している部分がありますが、私どもとしてはこの業績を見込んで予想しております。

■ 2024年3月期 配当予想



2024年3月期の期初配当予想は、
2023年3月期実績と同額の **1株あたり 17円50銭** を予想

配当 政策

中長期的な企業価値の向上を目指した成長投資を積極的に行い、中長期的視点で事業拡大を図る方針に対して株主の理解を深めていただくため、期末配当として年1回の剰余金の配当を安定的かつ継続的に実施していくことを基本方針とします。

	中間配当	期末配当
2023年3月期実績 (初配)		17円50銭※
2024年3月期予想	0円00銭	17円50銭

※ 2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合による株式分割をしており、2023年3月期の期末配当金は1株当たり35円で株式分割前の株式数を対象としておりますが、表中では株式分割後換算の1株当たりの配当金の金額を記載

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

23

続きまして配当予想です。

2024年3月期の期初配当予想は昨年度と同額の1株当たり17円50銭を予想しております。

当社配当政策といたしまして、中長期的な企業価値の向上を目指した成長投資を積極的に行いますが、

そのような視点で事業拡大を図る方針に対して、株主の皆様のご理解をいただくために、期末配当として年1回の剰余金配当を安定的かつ継続的に実施していく、これを基本方針としております。

そのため今期同様1株当たり17円50銭という予想でございます。



すべてのヒト、モノ、コトに 信頼を

Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

24

以上が第2四半期の決算の説明となります。ご清聴いただきありがとうございました。